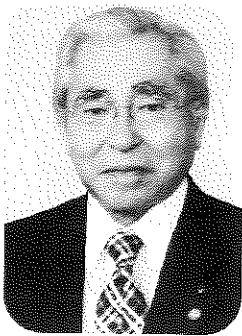


私の生涯の師

(株)栃木県経済同友会
筆頭代表幹事
板橋 敏雄



私は、1931年1月父栄三郎・母つるの長男として足利市に生まれました。翌年9月に弟が生まれましたので、足利市の月谷町の祖父母のもとに預けられ、学校に上がるまで正に我侭一杯に育てられました。両親は足利市の中心街で塗料・

荒物の個人商店3代目を経営しており、数人の店員も居りました。私は街なかの東小学校に入学しましたが、学校へ行くのを嫌がり連れてゆく番頭を毎日てこずらせました。1年2組に入り、担任の先生が小学校初担任の石川民治先生でした。教室でも、人見知り強く泣いてばかり居たようです。その時先生は何時も私を廊下へ放り出し、「この婆育ちめ、好きだけ泣いて居ろ。」と言われました。何日もその様な事の繰り返しであったようです。

一月たち二月经過するうちに、私の我侭な性格も変わり友達と話が出来るように成りました。母親は長男である私の変化に喜び、親にも出来なかった先生の「お仕置き」に対し、心からのお礼を申し上げに学校をお訪ね致しました。その時石川先生は、あのような処置は私も始めての経験であったので、あれでよかったのかと、私も涙が出る思いだったと、「泣く子をば、論ず術も判らず我も泣く」と日記に書きとめられていた事を話されたそうでもあります。母親は、何年か経ってその事を私に話してくれ、石川先生のお蔭でお前は変わる事が出来たのだ、先生への感謝の気持ちを決して忘れてはいけないとしみじみと語ってくれました。

石川先生は、一年だけ担任されまして、翌年宇都宮の高等師範学校へ進学されるために、足利を離れました。その最後の授業のとき、このクラスで一番変わったのは「板橋」だと言って頂いたのを、私もはっきりと覚えています。

私は、その後旧制足利中学を経て、一橋大学に進み、卒業後は、6年商社で修行をして29歳で、家業を継ぐために足利に戻りました。足利に帰って間もなく、あの石川民治先生が、足利市立千歳小学校の校長先生をされている事を聞き、早速に学校にご挨拶に上がりました。私が、校長室の扉を開けて一足踏み入れたとき、机の上の書類から目を上げられた先生は、即座に、「板橋」だなど仰いました。7歳の時に一年間だけ、人一倍ご迷惑をかけた私です。そして、29歳になり、社会人になっての再会でした。

その間一度もお会いする機会が無かったのです。私は先生に近寄り感動に震えて、先生の手を握り締め、お蔭様で足利に帰ってきました。有難う御座いましたと申し上げました。その時、先生は、私の手を取って「良かった、良かった」と仰ったのです。

人の生涯の中で、その生き方、考え方が変わる時期は人によっても違ふし、そのきっかけも夫々有ると思いますが、私の場合、我侭一杯の弱虫から、真面目に前向きに生きて行く様になった転機は正にあの小学一年生の時にあったと思われれます。当時、教師になり立ての若い石川先生のあの仕置きで良かったかと言う思いと、一応遅しく成人した私を見ての感慨が「良かった、良かった」と言う言葉に収斂されたのだと思います。これこそ人が育てる、教育の原点であると私は信じます。石川先生は、退職後陶芸の道に勤しまれ、その後良く個展を催されました。その時には、何時もお伺いして、ご自慢の作品を頂戴いたしております。

私は、今年の本年初めに芭蕉の言葉「不易と流行」を選びました。どの様な世の中の進化、発展の中にあっても、人間としてまた社会として変わっては成らないものを大事にしなごら、しかも進展する時代に挑戦して行こうという私自身への戒めとして書きました。忌まわしい事に昨年最も使われた言葉が、「偽」でした。

偽装、偽造、偽証など日本人として最も恥ずべき事件が次々に起こりました。この見過ごす事の出来ない現象の原因を、「国家の品格」を書かれた藤原正彦先生は次の様に指摘されています。

アメリカの市場原理主義が間違った形で入って来て、日本も弱肉強食のストレスの高い社会に成って来た。すべての人間がすべての人間と競争して、評価される世の中に成ると息苦しく穏やかな心で生きて行けなくなる。子供達もそんな中で、将来に展望を抱けないのを感じて居るのではないかと現在からの脱却を願って居られます。

私達は、四方を海に囲まれて育った日本人特有の勤労と他への思いやりや慈しみの心を早く取り戻して、しかもそれを堅持して、我々が直面しているグローバルな世界の海原へと果敢に船出をして行かねば成りません。

世界が高く評価し、渴望している我が日本の生産技術や、環境技術を満載して世界平和のために船出をする日本丸の乗組員の精神は、我々市民の間に育まれる友愛によって醸成されます。教育の基本も茲にあると確信しています。本年は我々の一人一人が心して、友愛の気持ちを高め、最も使われる字を信頼の「信」にしたいと思います。

県教委との教育懇談会

広報部長 小谷 和 弘 (宇都宮・星中)

平成19年8月10日(金)午後3時30分よりホテルニューイタヤにおいて「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催された。

まず、小・中学校長会を代表し山市隆中学校長会長があいさつをした。続いて、教育長が所用のため欠席とのことで、代理の立川雅康教育次長様からあいさつをいただいた。

続いて懇談に移り、中学校長会としては以下のとおり江面総務部長から趣旨説明が行われた。

- 1 教職員人材確保対策の推進と教職員配置の改善
 - (1) 中学校全学年35人学級の継続・堅持
 - (2) 少人数指導等、指導方法の工夫・改善のため加配教員の拡充
 - (3) 人事異動に関する校長具申の尊重
 - (4) 教職員の勤務意欲及び資質向上に資する本県独自の教員評価及び管理職評価の適正な実施
- 2 教育諸条件の整備拡充とその促進
 - (1) 特別支援教育の導入による諸条件の整備
 - (2) 中学生各種大会で使用する県立施設の充実と使用料の無料化
 - (3) 中学校体育連盟及び中学校文化連盟に対する助成費の維持継続
- 3 学校のスリム化の促進
 - (1) 各種研修会・会議等の厳選と調整
 - (2) 家庭教育の充実強化
- 4 その他
 - (1) 副校長、主幹教諭等の職種の導入や教員免許制の導入等、教育改革関連3法案の適切な運用(県からの回答で主なものは以下のとおり)
 - ・中学校全学年35人学級はスクールサポーター制度も含め継続していく。
 - ・加配教員については、第8次増員計画の見送りもあり、その実現には苦慮している。
 - ・特別支援教育では校内支援体制の整備や保護者向けの理解の啓発活動を実施する。
 - ・各種大会等における県立施設の使用料は受益者負担の原則により今後も理解をお願いしたい。
 - ・体育・文化連盟に対する助成については、大幅見直し中ではあるが、維持していきたい。



県教委・県立高校との懇談会

進路対策部長 池 澤 勤 (小山・小山城南中)

平成19年10月22日(月)県教育会館中会議室において、県教委・高校長会・中学校長会との懇談会を開催した。懇談結果は以下のとおりです。懇談会に向けた各地区のアンケートへのご協力に感謝いたします。

<提案内容>

- 1 募集方法について
 - (1) 日程について
 - ア 県立高校の合格発表日によって卒業式の日程が左右されるので、入試を火曜日に固定してほしい。
 - (2) 受付事務について
 - ア 昼休みに受け付けしていただいている学校もあり、ありがたい。今後も継続拡大していただきたい。
 - イ 遠隔地で少人数のときには、郵送による出願も受け付けていただいているが、今後とも個人による出願や郵送による出願の拡大をお願いしたい。
 - ウ 受付事務簡略化の徹底を更にお願したい。
 - 2 入学者選抜方法について
 - (1) 普通科においても、中学校3年間の教育活動を尊重する意味で調査書を重視していただきたい。
 - (2) 各高校の推薦の選考基準(資格要件)を明確に示してほしい。
 - 3 1日体験学習について
 - (1) 県内すべての高校の実施予定一覧(実施予定時間・内容等)を作成してほしい。その際、参加申込書提出締切日の統一をお願いしたい。
 - (2) 中体連の県大会と体験日が重複しないようお願いしたい。なお、県立高校の重複についても配慮願いたい。
 - 4 その他
 - (1) 受験料の納入方法について、個人で郵便局・銀行等で振り込めるよう引き続き関係部局に働きかけてほしい。
 - (2) 合格発表をホームページ上でお願いしたい。
 - (3) 推薦書・調査書について「エクセル」版もお願いしたい。
 - (4) 細則などのホームページへの記載時期、説明会の実施時期を1か月早くしてほしい。
- 以上のような提案に対しての県教委や高校側の真摯なご回答には隔たりの大きさを感じますが、三者の意見交換は今後も継続していく必要性を切に感じました。

栃木市中学校長会

本市では、5月から10月の月例の校長会に合わせ、小中別に研修を行っている。本年度の中学校の研修テーマは「確かな学力と豊かな心を育成する教育の在り方」を昨年度に引き続いて設定した。サブテーマは、教育は究極的に生徒一人一人に成立させ、生徒一人一人の学力と心を育てることであるので「生徒一人一人の学力と心を育てる教育の推進」とした。紙面の都合上、詳細について報告できないが、次に研究のまとめを記す。

- ① 教育は、単なるスローガンであってはならない。校長の教育理念、学校教育目標、学校経営目標等を生徒一人一人に具現化させるために、具体策を地道に誠実に実践し、積み重ねていく必要がある。
- ② 生徒に確かな学力と豊かな心を育成するためには、そのベースとなる教員の実践的指導力と人間性、生徒への限りない愛情が不可欠である。生徒へ全力投球できる力量のある教師集団を作っていくことは、校長としての最も重要な責務の一つである。
- ③ 生徒に確かな学力と豊かな心を育成するためには、生徒のやる気・意欲を喚起することが重要である。自ら燃える生徒は、自ら学習・行動し、成長していく。このことを肝に銘じ、学校生活の全般で、生徒のやる気・意欲を喚起していくように

地区校長会だより

塩谷地区中学校長会

本会は、塩谷地区2市2町の8人の中学校長で組織しており、年間5回の研修会を実施し、校長自身の資質の向上を図るとともに、情報交換・共通理解等を深めている。

内容は、第1回目は、4月当初に、総会を実施し、年間の研修計画の立案、役員選出・役割分担等の組織づくりを行い、6月、8月は前半の研究テーマ、10月、2月は後半の研究テーマとして取り組み、研修会毎に、情報交換・共通理解を大いに深めている。

本年度、前半の研究テーマは、「規範意識を育てる生徒指導の推進」で、5年計画の最終年度ということで、地区研修部長を中心にそのまとめを行い、9月の県中学校長研究大会にて、その成果を発表している。後半の研究テーマについては、平成22年度の関プロ大会に向けて「特別活動」に焦点を当てた研究テーマの設定を行っているところである。

本地区中学校長会の大きな特徴として、キャリア教育を念頭においた企業訪問を長年実施していることである。

本年度は、平成19年10月に開所した「喜連川社会復帰促進センター」を8月1日に訪れた。センターの概要の説明後、開所にむけ急ピッチで工事が行われているセンター内を見学した。新調理システムに

努めなくてはならない。
④ 教育は、一人一人において成立する。時間的には厳しい日々であるが、生徒一人一人に対するきめ細かな指導・対応を心掛けなくてはならない。

【県外教育事情調査】

本年度は、次の3校を訪問し、大変有意義な研修をさせていただいた。

- ① 茨城県水戸市立第二中学校 (6月26日)
研修テーマ「基礎・基本の徹底を図り、意欲をもって学び、活動する生徒の育成ー学習習慣の確立と指導過程の工夫を通してー」
- ② 千葉県我孫子市立久寺家中学校 (11月19日)
研修テーマ「自ら課題意識を持ち、生き生きと学習する生徒の育成」
- ③ 神奈川県横浜市立根岸中学校 (11月20日)
研修テーマ「課題解決とおした学校の特色づくりーベクトルの向きを同じにすることでー」
各校とも校長先生から、研究テーマ・内容等について、資料に基づいて分かりやすいご説明をいただくとともに、学校経営にかける熱意溢れるお話をお聴きでき、大変よい研修をさせていただくことができた。今後、本市各中学校の教育推進や学校経営に十分活用させていただきたいと思う。

[研修部 小菅 孝一 (栃木・吹上中)]

よる給食施設、洗濯工場、職業訓練施設、工夫された独居房、医療施設など、どれもが新鮮であった。その後、国の職員約250名、民間の職員約140名で、約2000名の収容者を見込む施設であること、民間の活力の取り入れ方、そして、刑務官とのタイアップした警備体制、所員教育の在り方等について質疑を行った。以前の刑務所のイメージが払拭され、所員教育の在り方については、教職員評価にも大いに参考になるものがあった。また、国の財政難からの方策、規制緩和という観点では、教育についても同様であると考えさせられたり、教え子をこのような施設には絶対入所させたくないと考えさせられたりなどと、様々な思いを巡らせた。しかも、充実した夏休み中の半日の研修であった。

また、関わりのある会議や研修としては、塩谷地区中高連絡会議を年1回、塩谷地区小中学校長研修会を年2回開催している。中高連絡会議では、塩谷地区内の中学校長と高等学校長が一堂に会して、塩谷地区内の中学校や高等学校の現状や入試等についての情報交換を行っている。小中学校研修会では、塩谷地区内の校長が一堂に会して、人事評価等についてのグループ研修や講演会を実施し、校長としてのより一層の資質の向上を図っている。

[広報部 小堀 良一 (塩谷・阿久津中)]

3年間の研究指定を終えて

小山市立豊田中学校長 佐藤 哲 通

本校は、平成17年度から19年度までの3年間文部科学省より「学力向上拠点形成事業推進校」の指定を受け、関係機関の温かいご指導をいただきながら全校あげて事業の推進に取り組んでまいりました。また、拠点校として市内各校の先生方のご協力を得ながら、多面的に各教科の授業内容についても研究を進めてきました。

研究にあたっては、平成16年度までの「学力向上フロンティア事業」の成果を踏まえ、研究主題を「自ら学ぶ力」を高める指導の工夫と定め「確かな学力」や「自ら学ぶ力」とらえ方を明確にするとともに「授業の工夫」と「家庭との連携」を二本柱とし、本地区の地域性に目を向けながら学校生活と家庭生活が、子どもたちの学習や成長により良いサイクルとなるよういくつかの角度から改善を試みました。また、研究を着実に具現化するために生活指導を全教育活動の基盤としました。したがって、研究や協議の時間が生徒指導や部活動の時間を圧迫することがないよう極力配慮しました。

「授業の工夫」では、子どもが自主的に学習を進めるための「学習計画表」を作成することで、次の授業の目標や内容が分かるようにするとともに、計画表を踏まえた家庭での予習が授業で生かされる場面に導入しました。また、自主学習を促進するために市教育委員会経由で白鷗大学生のボランティアを活用しました。

「家庭との連携」では、生徒に「生活計画表」を作成させることで自己管理能力を育て、保護者には家庭での学習時間と場が確保できるよう協力を求めました。ノーテレビデー等もそのひとつです。また定期的にアンケート調査や分析を行うとともに広報紙を通して情報を公開し、常に研究の方向性を確認しながら進めました。

加えて、教育環境全体の意識を高めるために、講演会や研修会の対象を生徒・職員から市内小中高教員、保護者・地域に広げ開催しました。

その結果、生徒の家庭学習の量と質の向上や、授業での自主的取り組みが顕著にみられるようになり、教師側も「指導計画」や授業の「ねらい」を改めて吟味作成する良い機会になりました。また、生活計画表を中心に生活ノートを通して、家庭との情報交換が密になり、授業と家庭学習の一体化に大きく迫りやすくなりました。今後は、さらに目標をはっきりさせ、分かりやすい授業の展開や教材の開発、発問の工夫など、より細かな面での研究を重ねるつもりです。

この研究の上に、今後「学力向上」の研究推進が少しでも加速されることをお祈り申し上げますとともに、3年間ご指導ご支援を賜りました関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

花と本と歌（詩）のある学校

下野市立南河内中学校長 板垣 博 史

本校では、豊かな心を育てるための特色ある教育として「花と本と歌（詩）のある学校」づくりを掲げ、その具現化を図っている。

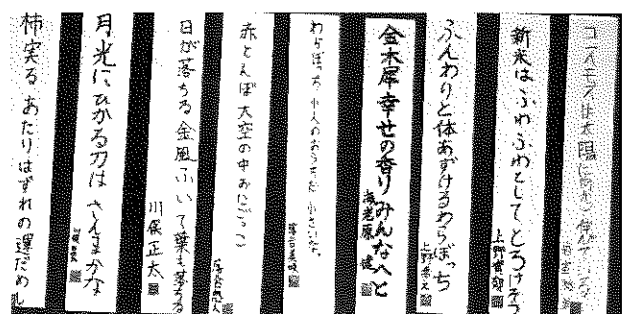
具体的な取組は以下のとおりである。

- ①「花」
 - ・PTAとの連携による親子花植え、親子除草
 - ・生徒の手によるフラワーアレンジメント（学校支援ボランティアを活用しています）
 - ・美術部、選択美術による花の絵と詩の制作（廊下に掲示しています）
 - ・公仕職の業務内容への具体的な位置づけ
- ②「本」
 - ・朝の読書活動「夕顔タイム」8:15～8:25
 - ・「南河中の50冊」の選定
 - ・ブックトーク（学年朝会の中で年間3回実施しています）
 - ・近くの市図書館との連携
- ③「歌（詩）」
 - ・3年生有志による合唱祭参加（2年連続で県大会で金賞を受賞しています）
 - ・入学式、卒業式での式歌合唱
入学式「南風」 卒業式「旅立ちの歌」

- ・生徒会役員による詩の朗読（郡読）
（入学式、3年生を送る会等で発表しています）

俳句づくり

- ・季節の俳句づくり……夕顔タイムの中で実施
- ・行事の俳句づくり
1年宿泊学習、2年スキー教室、3年修学旅行
- ◎全校生徒、全職員による句集を作成する。
- ◎玄関、生徒昇降口の黒板に日変わりで掲示。
- ◎生徒、職員により選句し、学年朝会で表彰する。



上の写真は、廊下に掲示した秋の俳句です。

◆次年度の事業計画案

—【県中学校長会の主な事業】—

- 総会並びに研修会 5月16日(金) 午後
総合教育センター 参加者：理事・各地区代議員
- 理事研修会
 - ・4月22日(火) 午後 教育会館中会議室
 - ・7月17日(木) 午後 県学校給食会
 - ・11月28日(金) 午後 県学校給食会
- 理事・協議員研修会 2月9日(月)
教育会館大会議室 参加者：理事・協議員
- 研究大会 9月9日(火) 午後
県こども総合科学館 参加者：全員

—【全日中・関地区の主な事業】—

- 全日本中学校長会総会
5月21日(水)・22日(木)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- 全日中研究協議会宮崎大会
10月30日(木)・31日(金)
フェニックス・シーガイア・リゾート
- 関地区研究協議会（千葉県千葉市）
6月19日(木)・20日(金)
ホテルグリーンタワー千葉